山際壽一著　**ゴリラからの警告！**

「人間社会ここがおかしい」をよんでno2

ペットも、飼い主も、ロボットになるとき

数年前から、日本では１５才以下の子供の数より、飼われているペットの犬・猫の数が上回ったと云われている。犬・ネコ以外にも、モルモットや小鳥、亀・金魚など多種にわたるペットがいる。日本は世界で有数なペット大国となった。

一方で、人間の代わりに重い荷物を運ぶ産業用ロボット、探索用ロボット、診療や手術を補助する医療用ロボットなど、さまざまな用途で開発され、すでに実用化されているものもある。最近、ひときは注目をあびているのがヒューマノイド（人間型）ロボットである。

ペットや動物とロボットは対極的（対立する）存在である。動物は人間とは、姿、形が違って、コミュニケーションの方法や、もとめていること、理解の仕方も異なる。それでも私たちは、動物に話しかければ、彼らなりの方法でそれに応じてくれているはずだた思い込んでいる。単に私たちが彼らの反応を勝手に解釈しているだけかもしれないが、ペットと共存できていれば、私たちは満足感を覚える。

ロボットは正反対だ。人間が作ったから人間の計算通りに動いてくれなくては困る。仕事を効率よく安全に進めるためにも、不満を云うことなく同じことを何度でも繰り返してくれる。融通は利かないが、人間の望む通りに改善し、動かすことが出来る。だから、その前で人間は不安を抱かない。何トンもあるトラックが目の前に迫ってきても不安を感じないのに、ゾウが目の前に迫れば恐怖にかられる。それは、ゾウの心が読めず、人に慣れていても何をするか完全に予測出来ないからだ。ヒューマノイドは、いくら外見が人間に似ていても、機械である限りそのような不安を覚えずにすむ。ロボットは動物のような命や、魂を持っていないからである。

人間がロボットに取って代わられる時代が

いま、動物の姿をしたロボットたちが人間の世界で活躍し始めている。犬のＡＩＢＯや、アザラシのパロは、安全で手間のかからないペットとして人々の心を癒やしている。

ヒューマノイドは、そういった特徴を持って人間の世界に入ってくるのも否定できない。現代の技術では、人間の語りにロボットが反応するだけでなく、人間に語りかけてくれることも可能だそうだ。人間のしたいことを先回りして提案してくれるのもできつつある。ネット上のマーケットのように、その人の過去の注文に基づいて次に求める物を提案してくれるのである。

ペットの動物とロボットとの溝は急速に埋まりつつある。ひょっとしたら、子供の代わりにロボットを持つ人が増えるかもしれない。ロボットは何時までも子供でいてくれるし、不満を云わず介護までしてくれるからだ。

ヒューマノイド（人間型）ロボットと人間

ロボットと動物の違いは重要だ。生物は、自分が生きるために自己主張するし、成長し、やがて死んで往く。私達に制御できない自然の営みだ。それに寄り添い、共感することで自分も生物であることを実感する。動物を完全に操作出来ないから、その主張を認め、相手を信頼しようとする。その心の動きは相手が人間であっても同じことだ。

ヒューマノイドの登場は人間が今、自己主張せずに気遣ってくれるパートナーを求めていることを示唆している。ただそれは、ロボットを人間にするのではなく、人間のロボット化、機械化を意味していないだろうか。　　（つづく）

書写（写経）運動ご案内

手本に向かって熱中出来るのは、
一時間です。
それ以上は、乱れる感じです。
その一時間が、
なんとも爽やかな快感が得られます。

※ 硯・墨・用紙・用意しています。
※ 手本はあります。（漢文・和文）
※ 開催日・毎月　五日・二十五日・午後二時から
※ 参加費　五百円（教材費、等）
どうぞ　ご参加ください。
※ 各自、ご用意いただくもの『念珠』『筆』